

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# ソフトボール

2024年/令和6年  
第471号

4月号  
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



新生・女子TOP日本代表、始動!「第1次国内強化合宿」を実施!!

## C o n t e n t s

- |  |                                 |
|--|---------------------------------|
| ・女子TOP日本代表レポート.....2                                 | ・ニトリ JD.LEAGUE 2024 日程.....30   |
| ・令和5年度全国審判員・記録員中央研修会(続報)....6<br>審判の部/神谷和宏 記録の部/遠藤正人 | ・2024年度日本男子リーグ・日本女子リーグ日程.....31 |
| ・令和5年度第6回理事会議事録.....18                               | ・2024年度全日本大会日程.....32           |
| ・令和5年度第7回理事会議事録.....22                               | ・2024年度全日本大会・日本リーグ使用球一覧.....33  |
| ・令和5年度第2回定時評議員会議事録.....25                            | ・事務局だより.....34                  |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ  
[www.softball.or.jp](http://www.softball.or.jp)

## ●女子TOP日本代表レポート●



# 新生・女子TOP日本代表 始動！



女子TOP日本代表の「新たな挑戦」がはじまった！

2028年ロサンゼルスオリンピックでの「オリンピック競技復帰」が昨年（2023年）正式に決定。まずは今年7月、イタリアで開催される「第17回女子ワールドカップ・ファイナルステージ」で「王座奪還」を狙う女子TOP日本代表チームが大会へ向けた「強化」をスタート。

3月10日（日）、「第1次国内強化合宿」（※3月5日～18日／沖縄県国頭郡金武町・中頭郡読谷村にて実施）の様子を報道関係・メディアに公開した。

「第1次国内強化合宿」には、昨年開催された各種国際大会（第13回アジアアカップ、第17回女子ワールドカップ・グループステージ、第19回アジア競技大会）に出場した選手たちをベ이스とし、新たに投手で鹿野愛音（タカギ北九州）、内野手で大川菜由（ホンダ）、山本星（SGホールディングス）の3名をTOPチーム初選出。今年7月のワールドカップ制覇をめざすのはもちろんのこと、その先（4年後）の2028年ロサンゼルスオリンピックを見据えた「チーム強化の第一歩」を踏み出すべく、若く、可能性を秘めた「合計25名」の選手が招集された。

報道関係・メディア公開日当日は、沖縄県国頭郡金武町／金武町ベースボールスタジアムを会場に、打撃・守備練習、紅白戦を公開。

ウォーミングアップからロングテイル・シートノックと精力的に汗を流し、紅白戦ではピリッと張り詰めた雰囲気の中で、先発登板した三輪さくら、後藤希友の両投手が熱の込められたピッチングを披露！三輪さくらが自らの持ち味である「多彩な球種・投球術」を駆使して上手く打者のバットの芯を外し、凡打の山を築けば、後藤希友も「負けてなるものか」と自身のストロングポイントとされる「球速110km/hを超える快速球」で押しまくり、決定打



この日の紅白戦では互いの投手陣が持ち味を發揮し、「緊迫した投げ合い」を展開!!



新キャプテンとして自身の想い・考えを述べた石川恭子選手

を許さず、0-0のまま終盤へ突入。その後、三輪さくらからバトンを受けた2番手・山下千世が「日本代表の先輩」坂本結愛にセンターへ大きなアーチを描くソロホームランを浴び、最終的にこの「貴重な一発」が決勝点となって、紅白戦は1-0の最少得点差で幕を閉じる形となった。

午後からは訪れた報道関係者に向けた記者会見、そして地元・沖縄の中学生、高校生、大学生を招いてのソフトボールクリニックを実施。



ヘッドコーチ・選手出席の記者会見も行われ、それぞれが現在の想い・今後への決意を語った

記者会見には女子TOP日本代表・宇津木麗華ヘッドコーチをはじめ、新キャプテンを務める石川恭子選手、合宿地・金武町にゆかりのある（母親が金武町出身）伊波菜々選手が出席。

まず宇津木麗華ヘッドコーチが「私たち女子ソフトボール日本代表にとって、非常に縁起が良い。ここ、沖繩の地で、こうしてまたチームの強化をスタートできたことを何より嬉しく思います。東京2020オリンピックでの金メダル獲得へ向け、第一歩を踏み出した場所がこの沖繩でしたし、『2028年ロサンゼルスオリンピック・ソフトボール復活』という嬉しい知らせを受け、またここから気持ち新たにオリンピックという『最大・最高の目標』に向かって邁進していくことができます」と自身の率直な思いを述べると、「今回の合宿に参加しているメンバーは、ご覧いただいて分かるように『日本女子ソフトボールの次代を担う若く、可能性を秘めた選手たち』です。はじめてTOPチームに招集した選手もおりますので、改めてしっかりと、じっくり、個々の能力・適性を見極めていきたい。選手を知り、一人ひとりの個性・特徴を最大限引き出していくことが私の役割・責任でもありますので、選手たちには自らの長所（ストロングポイント）をどんなアピールしても

らいたいですね」と今回の合宿の目的や選手たちへの期待をコメント。

女子TOP日本代表チームの新キャプテンを務める石川恭子選手は「これまで偉大な先輩方が務めてこられた『キャプテン』という役割を担うにあたり、緊張や不安がないわけではありませんが……その重責と向き合い、まずは『私がこのチームをまとめ、引っ張っていくんだ！』という覚悟（メッセージ）をチーム全体に示していきたいと思っています。人数が多く、はじめて一緒にプレイする選手もいる中で何より『コミュニケーション』が大切になってきますし、選手間でしっかりと連携をとりながら、個々の実力を十二分に発揮できるチーム作りをしていきたい!!それが現在の心境であり、今後への決意でもあります」と自らの熱い想いを語った。

記者会見後のソフトボールクリニックでは、合宿参加選手全員が地元・沖繩の中学生、高校生、大学生と交流を深めながら「熱心」に技術指導。元氣いっぱいウォーミングアップから、投手・捕手、内野手・外野手に分かれての「基礎・基本」をメインとした指導が行われ、会場は大いに盛り上がり招待された沖繩の選手たちも生で観る女子TOP日本代表の「技術指導・プレイの実演」に目を輝かせていた。



再び「世界の頂点」をめざして……

新生・女子TOP日本代表チームの「強化」がいよいよスタートした。先にもふれたが、今後は2028年ロサンゼルスオリンピックでの「オリンピック3連覇」を視野に入れつつ、まずは今年7月の「第17回女子ワールドカップ・ファイナルステージ」（※7月15日〜21日/イタリア・カステイオンス・デイ・ストラダで開催）に向けて歩みを進めていくこととなる。

ここ沖繩から再び「世界の頂」へ！  
新たな挑戦が、今、はじまった!!

## ◆第1次国内強化合宿 【参加選手・スタッフ】

### 〈選手〉

#### ・投手

- 勝股 美咲 (ビックカメラ高崎)
- 後藤 希友 (トヨタ自動車)
- 坂本 実桜 (日立)
- 鹿野 愛音 (タカギ北九州)
- 中山日菜子 (大垣ミナモト)
- 三輪さくら (シオノギ)
- 山下 千世 (金沢学院大学)  
※本年4月より豊田自動織機所属

#### ・捕手

- 切石 結女 (トヨタ自動車)
- 炭谷 遥香 (ビックカメラ高崎)

#### ・内野手

- 石川 恭子 (トヨタ自動車)
- 大川 茉由 (ホンダ)
- 川畑 瞳 (デンソー)
- 工藤 環奈 (ビックカメラ高崎)
- 坂本 結愛 (戸田中央)
- 下山 絵理 (トヨタ自動車)
- 須藤 志歩 (豊田自動織機)
- 中溝 優生 (デンソー)
- 山本 星 (SGホールディングス)

#### ・外野手

- 伊波 菜々 (トヨタ自動車)
- 唐牛 彩名 (日立)
- 川村 莉沙 (デンソー)
- 塚本 蛍 (ホンダ)
- 中川 彩音 (SGホールディングス)
- 藤本 麗 (ビックカメラ高崎)

### 〈スタッフ〉

#### ・ヘッドコーチ

- 宇津木麗華 (ビックカメラ高崎)

#### ・アシスタントコーチ

- 山田 恵里 (日本ソフトボール協会)
- 渥美 万奈 (トヨタ自動車)
- 峰 幸代 (トヨタ自動車)

#### ・トレーナー

- 村上 純一 (ジェイワン)
- 安部 容子 (ティムコーポレーション)

#### ・マネージャー

- 柳川 直子 (ビックカメラ高崎)

#### ・情報

- 大田 穂 (順天堂大学)

#### ・用具

- 田島 百恵 (ミズノ)



# ●全国審判員・記録員中央研修会（続報）●

## ◎審判の部

日ソ協審判委員長 神谷 和宏

令和5年度全国審判員・記録員中央研修会は、前回（2022年2月開催予定）がコロナ禍もあつて開催目前で「中止」を余儀なくされ、4年ぶりの開催となった。

2020年2月以来となる中央研修会は、愛知県刈谷市において開催。4年という長きにわたる「空白」期間があったものの、愛知県協会・刈谷市連盟の方々によるご尽力・お心遣いもあり、無事3日間にわたる研修を終了することができた。



筆者・日ソ協神谷和宏審判委員長

### 1. ルール改正点

R2-1項2（P27）  
競技場の諸条件

（※外野フェンスまでの距離）

R2-1項2（注）に以下の文章を追記。新設球場においては本塁から外野フェンスまでの距離は76.20m以上の国際規格対応が望ましい。

また、競技種別においては男子76.20m以上、女子67.06m以上で設定できる球場・グラウンドを使用することが望ましい。

※改正理由（修正理由）

ルール改正ではないが、新たな球場建設等の際、誤解を招くことがないよう、国際規格に関して明記することとした。

R2-3項2（P27～28）  
競技場の諸条件  
（※小学生の投球距離）

R2-3項2に（注3）を新設。小学

生の投球距離の延長を「予告」（注3）小学生の投球距離については、2025年度から現行の10.67mから12.19mに改正される。の一文を追加し、2025年度のルール改正を予告した。

※改正理由（修正理由）

「令和4年度第8回理事会」で総務委員会提案事項として、小学生の投球距離が、現行の10.67mから12.19mに変更することが承認され、2024年度のルールブックで改正を「予告」し、周知徹底と準備期間を設けた上で、2025年にルール改正を行い、「完全実施」することを記載した。

R2-4項（P33）

ダブルベース

（一塁側ファウル地域略図）

※改正理由（修正理由）

掲載ページ数に誤表示があったため、正しい掲載ページを表示した。

R3-3項1（P37）  
グラブとミット

R3-3項1の条文に、ミットとは

親指部分以外がまとまった形状のグラブのことである。の一文を追加。

※改正理由（修正理由）

3-3項1. にWBS C（世界野球ソフトボール連盟）のルールには記載のある「ミット」の定義がJSAルールにはなかったため、定義の文章を追加した。

R3-4項3（P38）

靴（シューズ）の（注1）を削除

※改正理由（修正理由）

WBS C（世界野球ソフトボール連盟）のルールがすでに改正されており、ジュニアカテゴリーでも金属製スパイクの使用が認められているため、（注1）の文章を削除。（注1）がなくなったため、従前の（注2）を繰り上げ（注）とした。

R4-10項（P52～54）

代替プレイヤー

10. 及び（注）の新設

R4-10項に10. 頭部外傷（死球時、送球時、走塁時、守備時、いかなる場合であっても）が発生した場合、代替プレイヤーを使用することができる。

を新設し、さらに（注）として、頭部外傷とは、頭部・頸部に外圧が加わって損傷が起こることをいう。の頭部外

傷に関する解説(説明)を加えた。

※改正理由(修正理由)

頭部への死球や頭部・頸部に送球・打球が当たった場合、打撃時・走塁時・守備時のいかなる場面であつても、そのようなプレイがあつたときには、外見上、出血が認められなくても、代替プレイヤールールを適用することができるものとし、4-10項に10.を新設し、(注)を設け、頭部外傷に関する説明文を加えた。

また、これに伴い、従前の(効果)9が10項全体にかかる(効果)となることから(効果)10項とし、(効果)10項(3)と(注)から出血のための文言を削除した(頭部外傷を含めたこと

で「出血しているかどうか」だけが代替プレイヤー使用の要件ではなくなつたため、出血という表現を削除した。

R5-3項(P55)

正式な試合

3. コールドゲーム(打ち切り試合)

(1)の(注)を修正

※改正理由(修正理由)

当該球審→担当球審に修正。

他の項目・ページでも「当該審判員」の表現を「担当審判員」に修正しているため、ここでも「当該球審」を「担

当球審」に文章表現を修正した。

R5-3項(P56)

正式な試合

5. サスペンデッドゲーム

(注)を修正

※改正理由(修正理由)

当該球審→担当球審に修正。

他の項目・ページでも「当該審判員」の表現を「担当審判員」に修正しているため、ここでも「当該球審」を「担当球審」に文章表現を修正した。

R5-6項(P57~58)

タイプレック

〈効果〉6項(2)に追記

R5-6項(効果)6項(2)に、

違反した走者が得点すると守備側の

ピール権は消滅する。の一文を追加し、

走者が得点した場合、アピール権が消滅することを明記した。

※改正理由(修正理由)

他のアピールプレイとアピール権消滅のタイミングが異なるため、「違反した走者が得点すると守備側のアピール権は消滅する」ことを明記した。

「第1回女子U15ワールドカップ」開催時に、WBSC(世界野球ソフト

ボール連盟)審判長に確認が取れたため、今回のルール改正に盛り込んだ。

R5-8項(P58~59)

打ち合わせ

(チャージドカンファレンス)

2. 守備側の打ち合わせ

「監督が」の文言を削除

※改正理由(修正理由)

ルール条文(本文)に、守備側の打ち合わせは、監督またはコーチが「タイム」を要求してと明記してあるため、「監督が」の文言を削除、簡素化した。

R8-6項(P101)

走者アウト

14.(注3)の文章表現修正

※改正理由(修正理由)

四球で出塁した際、自打球を防止するためのプロテクター(フットガード)等を、一塁の3~4m手前で外し、そこから突然走り出すような行為が増えているため、それを防止することを目的に文章表現を改めた。

R8-6項(P104)

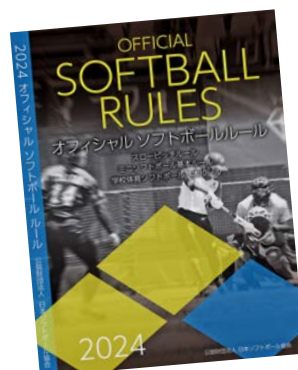
走者アウト

〈効果〉21~24(3)2)の修正

※改正理由(修正理由)

当該審判員→担当審判員

に修正。他の項目・ページでも「当該審判員」の表現を「担当審判員」に修正しているため、ここでも「当該審判員」を「担当審判員」に文章表現を修正した。



2. 競技者必携の改訂

1. 公認審判員規程

第2条(公認審判員の種別)※P18

第2種公認審判員は、全国的大会の塁審、地区大会の審判、第3種公認審判員は支部内大会の審判をすることができ、熟達した技術と識見をもつた者で、当規程の定める手続きを経て、会長よりそれぞれの資格を付与された者とする。

※改訂理由(修正理由)

第2条3を改訂し、「第2種公認審

判員」も「全国的大会」で「塁審」を務められるものとした。これは全国的な審判員の減少・不足を受け、「第1種公認審判員」だけで全国大会を運営することが難しいという現状を鑑みての条文改訂・措置である。

**第7条（認定会参加資格）** ※P19～20

※改訂理由（修正理由）

こちらも全国的な審判員の減少・不足を受けての改訂・修正であり、「第1種公認審判員」の取得要件を、「第2種公認審判員」資格取得から「2年」↓「1年」に短縮・緩和した。

**第11条（大会の審判員）** ※P21

第11条文末に、ただし、第2種公認審判員については、当該審判員が所属する支部の審判委員長が認めた場合に限る、塁審のみ行うことができる。を  
追記。

※改訂理由（修正理由）

第2条3の改訂を受けての改訂・修正で、「第2種公認審判員」であっても「全国的大会」で「塁審のみ」務めることができるようになった。第11条にも改めてそれを明記するとともに、あくまでも「当該審判員が所属する支部の審判委員

長が認めた場合に限り」という「条件付き」での認可であることを併記した。

**5. 審判委員会申し合わせ事項**

**6. 試合と打ち合わせについて  
(2) の削除 (P41)**

※改訂理由（修正理由）

タイムレック走者の違反について、2023年度は導入初年度であり、ペナルティを与えることが目的ではないため、審判員による「指導」、場内アナウンスによる注意喚起を容認したが、2024年度は「アピールプレイ」の対象として、「完全実施」に踏み切るため、(2)の条文を削除し、以下の項番を繰り上げた。

**10. 審判主任・副審について (P47)  
(2) 当該審判員↓担当審判員  
に修正**

※改訂理由（修正理由）

ルールブックと同様の修正で文章表記、用語使用の統一を行った。

**6. 審判実務のために**

**5. 塁審について (P61)**

**(4) 塁審の位置と姿勢の修正**

**(イ) 二塁塁審**

三塁と二塁の延長線上に位置し、塁から4.5m離れた位置に立つ。

※改訂理由（修正理由）

二塁塁審に関する記述がなかったため、一塁塁審・三塁塁審と同様に、二塁塁審に関する記述を加え、それぞれの位置を明確化した。

**9. 審判員の位置及び動き (P119)  
(4人制)**

**(8) 走者満塁の場合 中殺**

※改訂理由（修正理由）

一塁塁審を○が抜けてしま

ついていたため、○印を追加する。  
P128 余白部分に「タイムレック」  
放送原稿を掲載

※掲載理由

タイムレック走者の違反について、「アピールプレイ」の対象とし、「完全実施」に踏み切るため、「タイムレック」の放送原稿をP128の余白部分に掲載し、誰がタイムレック走者になるかまで、放送することのないよう注意を促す（アピールプレイの対象となる走者について、場内アナウンスで明示することのないように注意を促す）。

以上、2024年度のルール改正点・競技者必携の改訂点を確認した。

公平・公正、厳格で正確なジャッジを行うには、正しいルールの理解と適用が必要となることは言うまでもない。また、信頼される審判員となるためには、基礎・基本に忠実に、何度ものそれを反復して叩き込み、意識することなく自然に行うことができるよう熟達・熟練の域に達するまで繰り返すことである。

各都道府県において「指導的役割」を担う皆さんだからこそ、まずは自身自身がルール改正点や競技者必携の改訂点を正しく理解した上で、ここで伝





達された内容に個々の解釈や判断を付け加えることなく、正確に間違いなく末端まで伝える役割を担ってほしい。

### 3. 審判実務について

足袋拔豊松副委員長を講師に基本的な「審判実務」について研修を行ってもらった。足袋拔副委員長は元旦早々、能登半島地震で被災され、この中央研修会に出席してくれたこと自体が「奇跡」のような出来事であった。岡野秀子委員の献身的なサポートもあり、翌日の実技研修へ向け、審判員の「基礎」「基本」を改めて見つけ直し、しっかりと準備を整えた。



「被災地」から中央研修会に駆けつけてくれた足袋拔豊松副委員長

また、「東京2020オリンピックソフトボール競技」に「大会審判員」として派遣された矢部美樹氏(神奈川県ソフトボール協会所属)による「大会報告」の時間も設け、コロナ禍真っ只中であった当時のエピソードや実際にオリンピック審判員としてグラウンドに立ち、プレイ・試合をジャッジした貴重な経験談を聞き、その実体験を「共有」した。



「東京2020オリンピック」を経験した矢部美樹審判員の貴重な体験を共有

「J.D. リーグ」「日本リーグ」もそうだが、オリンピックをはじめとする国際大会に「選ばれて立つ」ということは大変なことである。

もちろん審判員の目標はそれだけではないが、審判員である以上、より高いところをめざし、より大きな舞台に立つことが自分自身を磨き、審判員として成長していくことに必ずやつながるはずである。

やる以上は最高峰をめざす気概と気合が不可欠で、その一方で常に謙虚で素直に自分自身を見つめ直す冷静さを併せ持ち、誰からも愛され、みんなのお手本・目標となるような審判員をめざしてもらいたいものである。

### 4. 実技研修

研修会2日目の「実技研修」では、基本動作の確認(担当講師・遠藤裕美委員)からストライクゾーンの確認(担当講師・佐藤和哉委員)、実務指導の要点について(担当講師・球審・岡野秀子委員、一塁審・唐橋仁委員、二塁審・松本雄二委員、三塁審・佐藤和哉委員)研修を進めた。

特に、ストライクゾーンの確認を担当した佐藤和哉委員は、北海道からお手製の「ストライクゾーン判定機」を持ち込み指導する熱の入れよう。こういった



佐藤和哉委員(左端)は北海道からお手製の「ストライクゾーン判定機」を持ち込み、指導する等、熱のこもった研修を行った!

熱意とちよつとした創意工夫が自らの審判技術の向上につながっていく。柔軟な発想、多角的な視点、どうすればうまくなるのか、自らを高めるために何が必要か、常に自問自答する「姿勢」と「情熱」が何より大切となる。

ストライクゾーンの見極めにおいては、高めのボールをどう判定するか一つのポイントで、その見極めができるかどうかでストライクゾーンが安定するかどうか変わってくる。ソフトボールには下から浮き上がってくるライズボールというやっかいな変化球もあるだけに、その見極めが一つの大きなポイントとなる。

そのあたりを踏まえ、投球判定の研修も行い、愛知県下の日本男子ソフトボールリーグ所属チーム、大学女子チーム、高校女子チームのバッテリーの協力を得て、実際に投球してもらいながら一球一球「ストライク」「ボール」を判定し、研修を進めた。とにかく数多く実際の投球に触れ、審判員としての「目」を養っていくことが重要になる。扱うレベルが高くなればなるほど、バッテリーは（あるいは打者も）自らを少しでも有利にしようと審判員を「欺き」にかかってくる。それらに惑わされることなく、自分自身のストライクゾーンに自信を持ち、ブレることなく冷静沈着に正確無比な判定を続けなければならない。



実際に投球を行っての投球判定の研修



実際の試合を想定した実技研修も行い、指導の要点を確認

実技研修では、地元・愛知の高校生チームの協力も得て、試合中起こり得るさまざまなプレイを想定したローテーションの研修も行った。できるだけ効率的に無駄なく各塁をカバーし、正確な判定ができるよう考え抜かれたローテーションではあるが、大切なのはローテーション通りに動くことでもローテーションを忠実に守ることでもない。どれだけスムーズにローテーションを行うことができて正しい判定ができないのであれば「宝の持ち腐れ」であり、「本末転倒」になってしまう。まず審判員がなすべき最も重要な任務は何か……を理解した上で研修を進めてほしい。

### 5. 審判員育成に関する指導資料

研修会最終日、小牧司副委員長を中心に作成した「審判員育成に関する指導資料」について紹介する。

#### 審判員育成に関する指導資料



審判員の育成・増員は審判委員会として取り組むべき「最優先課題」ととらえている。後進の指導にこの資料を役立てるとともに、各支部での積極的な取り組みに期待している。



# ◎記録の部

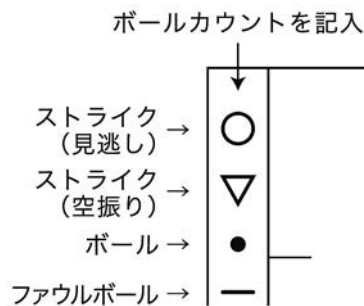
日ソ協記録委員長 遠藤 正人

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となり、新しい顔ぶれも並ぶ中、4年ぶりに改訂されたスコアリングマニュアル第5版を中心に研修が進められた。今回の改訂では主にWBSルールとの整合性を図り、合わせて過去事例の復活を行ったことで、これまで以上にマニュアルが公式記録員の教科書として利用できるようなったように思われる。ただし、複雑なルールへの対応のため、実務である記録や点検に影響してきていることも理解いただき研修をスタートした。

## (1) 令和5年度の反省と統一事項

大会における機器の準備等については概ね良好のようである。また、Dropboxによる記録業務については、前回の中央研修会で統一した利用方法を伝達するべきところ、中止となったため、今回改めてではあるが参加者に実践を積んでいただくこととした。大会の結果報告における漏れや誤りの指摘が、以前に比べ減少している要

ストライク(見逃し)	○	Called Strike
ストライク(空振り)	▽	Swing Strike



## (2) スコアリングマニュアルの主な改訂内容

因のひとつに、PCによる集計の取り纏めが「個」による作業であったものを、Dropboxの利用により情報共有、そして共同作業ができるようになったことによるものと思われる。しかし、誤りが全くなくなったわけではないので、改めてではあるが記録3号や4号を中心に正しい報告ができるよう努めていただきたい。

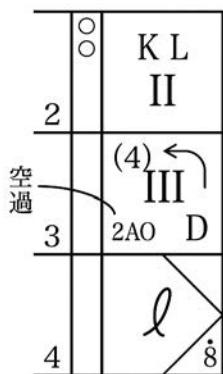
### 【解説編】

① ストライクの記号を分類

- ↓ 見逃しストライク
- ▽ ↓ 空振りストライク

③ アピールアウトの記号の変更

2 (AO) ↓ 2 AO

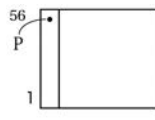


② ペナルティボール

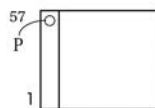
ペナルティストライク  
記号の追加

P ↓ ペナルティボール  
ペナルティストライク

ペナルティボール(P)  
・20秒ルールの違反  
・準備投球の超過  
・捕手が投手以外の野手に返球(走者がいない時)  
※投球数に加えない



ペナルティストライク(P)  
・打者席のライン消し  
・打撃姿勢遅延等  
※投球数に加えない

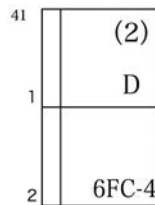


④ 野手選択記号の変更

※送球先を記録する

6FC ↓ 6FC-4

死球で出塁



遊撃手の野手選択により、打者走者は一塁に生きる

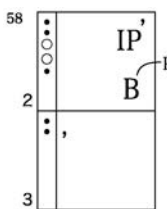
2行書き可 6FC-4

⑤ 不正投球の集計の変更

走者ありの場合  
↓ 不正投球を記録する

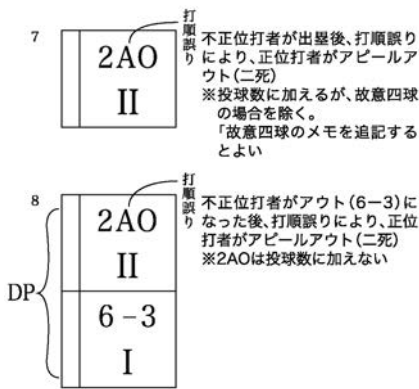
走者なしの場合  
↓ 不正投球を記録しない

⑥ 投球数に加えないもの



走者なし。初球、不正投球があったがIPに算入しない  
※投球数に加える  
3 ボール後、捕手が投手以外へ送球  
※投球数に加えない  
2 球目、不正投球。一塁走者は二塁進塁  
※投球数に加える

⑦ 自責点対象走者の追加  
三振り逃げ暴投での出塁は自責点対象の走者となる



故意四球  
離塁アウト時の投球  
追加…ペナルティボール  
ペナルティストライク  
追加…打順誤りによる  
正位打者アピールアウト  
※不正位打者が出塁後、正位打者がアピールアウトになった場合は加える  
(注)不正位打者が故意四球で出塁した時を除く  
不正位打者がアウトになった後、正位打者がアピールアウトになった場合は加えない



投手の記録の取り扱いの変更点に注意！

7イニング未満の試合を除く

⑩ 完全試合と  
無安打無得点試合での  
投球回数について追記

⑧ 自責点における三振り逃げ暴投はアウトの機会に含めない  
⑨ 7イニング未満で終了した試合における先発投手の投球回数条件を変更  
※下図（勝利投手決定の事例参照）  
修正…6回で終了した場合、4イニングを投球  
修正…4回で終了した場合、3イニングを投球  
3回で終了した場合、2イニングを投球

事例 19-7

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
X	0	0	0	3	0	2	0	5
Y	2	1	3	1	0	0	x	7

投手名	投球回数	打者	打数	被安	失点	自責	被犠打	与四	与死	三振	投球数	勝敗
D	3. /3	9	9	0	0	0	0	0	0	3	35	
E	1. /3	8	7	4	3	3	0	1	0	1	33	
F	3. /3	12	11	2	2	1	0	0	0	2	46	○

⑨ 説明資料  
勝利投手  
決定の事例

A 先発投手が勝利投手になれる条件は、

- ① 4回以上投球していること。
- ② 6回で終了した試合では少なくとも4回まで、4回または5回で終了した試合では少なくとも3回まで、3回で終了した試合では少なくとも2回まで投球を完了していること。
- ③ 先発投手が再出場したときは、合計した投球回数が①または②を満たしていることである。加えて、救援投手が引き継いだ後も、自チームが一度も同点、または逆転されることなく、チームが勝利した場合でなければならない。

⑤ テンポラリーランナーに間違えた選手が出た場合には、正しい選手と交代させる(それに対するペナルティはない)。

※国際(WBSC)ルールでは違反があった場合、アピールプレイの対象となる。 **参考掲載**

⑥ テンポラリーランナーの走塁による記録は、その選手(テンポラリーランナーとなった選手)の記録とする。

**参考掲載** 注:国際(WBSC)ルールでは、テンポラリーランナーの走塁による記録は投手または捕手に記録している。

⑦ テンポラリーランナーが負傷によりプレイの続行ができなくなったとき、負傷した選手に代わりベンチより新たな代走と正式交代し、合わせてテンポラリーランナーとして入ることになる。

(事例21-29)

⑪ テンポラリーランナーについて  
国際(WBSC)ルールや集計対象者を参考掲載



事例 21-28 ①

事例 21-28

Q ① 3回表、一死後、8番打者H(投手)がアウトになり二死、9番打者I(捕手)が死球で出塁した。この時のテンポラリーランナーは8番打者Hでよいか。

A ① テンポラリーランナーの適用としては最後に打順が回ってくる打者Hとなるが、この場合、Hは投手のため7番打者Gまたは8番打者Hのどちらでもよい。

事例 21-28 ①

位置		No.	3
7	G	7	④
			I
1	H	1	⑥
			II
2	I	2	
TR	H	1	TR
			D
		9	

← どちらでも可能 →

位置		No.	3
7	G	7	④
			I
1	H	1	⑥
			II
2	I	2	
TR	G	7	TR
			D
		9	

ただし、8番打者H(捕手)、9番打者I(投手)の時は7番打者Gしかテンポラリーランナーとなることはできない。

投手のテンポラリーランナー

位置		No.	3
7	G	7	④
			I
2	H	1	⑥
			II
1	I	2	
TR	G	7	TR
			D
		9	

事例 21-28 ②

Q ② 3回表、一死後、2番打者B(投手)が死球で出塁。3番打者Cがアウトで二死となり、4番打者D(捕手)が四球で出塁した。テンポラリーランナーとして2番打者のBに代わりAを、4番打者Dに代わりCとしたがこれでよいか。

A ② 同時通告の場合、Bに代わりAまたはC、Dに代わりCまたはA、どちらを使用してもよい。また、下図のとおり、先に2番打者Bに代わりCを、1球投球後、Dに代わりAをテンポラリーランナーとして通告があった場合、攻撃チームがそのように決めたのであればそれでよい。ただし、いったん決定されたテンポラリーランナーをその後に入れ替えることはできない。

事例 21-28 ②

位置		No.	3
9	A	9	⑦
			I
1	B	1	
TR	C	3	TR
			D
3	C	3	⑧
			II
2	D	2	
TR	A	9	TR
			B
		4	

▶

3			⑦
			I
	(4)	TR	
			D
	⑧		II
⋮			
			B

▶

3			⑦
			I
	(4)	TR	
			D
	⑧		II
⋮			
			B



事例 21-28 ③  
※前頁から続き

Q ③ FP(投手または捕手)が打撃を兼務した状態で出塁した後(または走者として兼務した後)、二死となればテンポラリーランナーを採用できるか。

A ③ 代打、代走といえど元々は投手(または捕手)なので、テンポラリーランナーは採用できる。

事例 21-28 ③

位置		No.		3
9	A	9		7
				I
		1		
DP	B	10	H	
H	J	1		TR
TR	C	3		D
		2		
3	C	3		8
		3		II

1	J	1		
		FP		

テンポラリーランナー新設事例

事例 21-29

Q 二死後、5番打者E(捕手)が出塁。テンポラリーランナーとして4番打者Dが入った。Dは次の打者の初球に盗塁成功したが、その際負傷してしまった。Dに代わるテンポラリーランナーを出場させることはできるか。

A テンポラリーランナーDがプレイの継続ができない場合、正規の交代通告により交代ができる。控え選手であるJが、Dの打順である4番の代走として出場することでテンポラリーランナーとしてDと交代ができる。

なお、ラインナップに入っている選手(例えば、3番打者C)は負傷したDと交代はできず、正式な控え選手のみがテンポラリーランナーDと交代できる。

また、テンポラリーランナーDと交代した捕手Eは、Dが負傷したからといって再度交代し、走者になることはできない。

さらに、テンポラリーランナーDが怪我で出血した場合、代替プレイヤーを使うことはできず、正式な控え選手によってのみ交代できる。

事例 21-29

位置		No.		3
8	D	26	○	KS
R	J	32		II
		4		
2	E	36		TR
TR	D	26		S
TR	J	32		TR
		5		D
3	F	11	○	
		6		

負傷

位置		No.
8	D	26
R8	J	32
		4
2	E	36
TR	D	26
TR	J	32
		5
3	F	11
		6

事例 21-29

(3) グループ討議

ブロック別に分かれ、スコアリングマニュアル改訂に伴う疑問点を話し合い、質問事項として取りまとめ、記録委員に報告。  
翌日に再度説明を行うこととした。

(4) スコアカード点検の留意点

スコアカードの点検については第1種認定会の実技試験となっており、点検のポイント(コツ)を説明。  
記帳時に間違いが多い事例や今回のスコアリングマニュアル改訂に伴う新旧の違いについて注意することも重要なポイントとなった。

(5) スコアカードの点検

第1種認定会の実技試験では90分のところ、時間制限60分で行った。  
各県の指導者であれば十分な時間かと思われたが、スコアリングマニュアルの改訂もあり、思っていた以上に「苦戦」の様子……。ただし、J.D.リーグや国際大会では、マスコミへの提供時間が「その半分」であることも参加者には理解いただきたい。

### (6) スコアリングマニュアル 改訂に伴う質問に 対する回答

いくつかの質問に対し、担当委員より回答を行った。

野手選択における記帳方法が変更になったが、送球しなかった場合はどうなるかについては、従来の記帳法のままとなる。

また、空振りストライクの判定については審判委員長とも確認し、チェツクスイング（ハーフスイング）時の判定に伴うジェスチャーをもとに判断することとし、より一層の連携をとるよ

アピール前		
位置		No.
9	A	1
		1
4	B	2
		2
3	C	3
		3
DP	D	4
		4

アピール前	
7	8
K S	
I	
6-3	
II	
(4)	
III	

タイプレック走者違反 T

アピール後	
7	8
K S	
I	
6-3	
II	
(4)	
III	

タイプレック走者違反 T 2AO I

スコアリングマニュアル改訂に伴う質問に答える八木美代子委員



うにしていたいただきたい。  
次に、本年度よりタイプレック違反のペナルティが適用になるため、記帳方法等について説明。タイプレック走者に違反があった場合、正規の走者をアウトとし、他のルール違反は適用しない。これにより、間違った走者に代わり正規の走者がアウトとなり、その記録は正規の走者の記録とする。

### (7) 大会記録業務および Dropboxの活用

① 記録本部における大会業務

事前準備、大会中における留意事項について説明

Dropboxの利用で情報の共有が  
一気に進んだ

「個からチームへ」

② Dropboxの活用方法

・ 日本協会記録委員会の活用方法を  
紹介

・ 全国大会やリーグでの業務運営

・ 記録委員会の活用例紹介

※ 通算・当期・年度で管理し、

情報を共有

・ 過去大会の保管と管理

・ 認定会や研修会資料

・ 会議資料

・ その他

③ Dropboxを利用した

大会記録業務を实践

全国大会では大会初日に試合数が多

くなるため、業務過多となるが、内容に優先順位をつけながら、必要な業務に集中することで業務終了時間の短縮にもつながる。

本実践では全国大会初日を想定し、4人1組でPC入力作業を行った。それぞれがA球場、D球場担当となり、該当スコアを入力。Dropboxでデータを共有しながら、自身のデータと他の3名のデータを合算。委員が各グループを管理し、作業の助言を行いながら、参加者それぞれが記録4号を作成したり、記録3号の共同入力など、大会初日に必要な業務を行った。



大会での記録業務を想定したDropboxを活用した研修も実施



### (8) スコアカード点検の確認

前日に行ったスコアカードの点検について、間違いやすいポイントを交えながら正答を伝達。間違いやすく、モレやすいポイントに関しては、スコアカード記帳時にも多く発生するため、点検技術を磨くことで、より正確なスコアカードの完成につながる。



より正確なスコアカードの完成と迅速な提供をめざして……点検結果を確認

### (9) 国際大会への派遣報告

女子U18アジアカップ(中国・福建省)に派遣の群馬県協会・柳沢記録委員長と、アジア競技大会(中国・杭州)に派遣の愛知県協会・佐藤記録委員長から詳細な報告があった。特にアジア競技大会は2026年に名古屋市で女子ソフトボール競技が行われることが決まっている。

独自システムを持っている中国に比べ、今後は人材育成だけでなく、開催準備に向けた取り組みを進めていかなければならない。



国際大会の派遣報告も行われた

### (10) 研修会総括

スコアリングマニュアル改訂により変更点等が多く、その他の研修も盛りだくさんの内容であったが、配布資料を有効に利用し、伝言ゲームにならないよう各地区等でしっかり伝達いただくようお願いした。



研修会を総括する筆者・遠藤正人記録委員長

また、参加いただいた各県代表者の方々の目的として、第1に正しい記録を後世に残すこと。第2に1人ひとりが仲間をつくり、再び公式記録員1万人をめざすための人材育成。第3には「記録」の活用について多種多様な方法があるはずであり、できる範囲で取り組んでいただくようお願いし研修を終えた。



記録の部・研修会参加者全員で記念撮影

# 令和5年度第6回理事会議事録

本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。理事25名中出席19名（欠席6名）、監事出席2名で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認され、審議が行われた。



## ● 審議事項

### 第1号議案

#### 令和5年度収支補正予算（案）について

石井財務委員長より「令和5年度収支補正予算」が提案され、主に国際大会派遣や国内強化合宿の費用削減に伴う支出の減少と、男子アジアカップの収入・支出が確定し、女子U15ワールドカップの収入・支出の見込みが出たことに伴うJSC（独立行政法人日本スポーツ振興センター）及び自治体の受取補助金が確定した内容の補正であり、併せてレブリカユニフォーム販売を読売新聞社と共同主催した「日米対抗ソフトボール」の精算に含入したことによる補正であることが説明された。収入においては、当初9億5千919万9600円のところ、7千444万4691円減の8億8千475万4909円となる。

支出においては、当初10億2千941万9600円のところ、9千904万9414円減の9億3千37万18

6円となった。

全体としては当初予算比2千460万4723円増の4千561万5277円マイナスの補正予算案となる。

このうち、特定資産取崩収入（男子国際大会開催事業積立1千500万、普及振興事業積立500万）2千万円を差し引いた、約2千561万円が実質赤字となる。

この補正予算の中の印刷製本費に「ASOBALL英語版テキスト」作成とあるが、今後、海外でも普及事業に注力するという考え方、方向性であるのが確認され、昨年の「女子U15ワールドカップ」開催期間中にロウ・ベンチュエーUSA（ソフトボールアジア）会長からも「ASOBALL」を普及させてもらいたいとの要望があり、指導者向け講習用として英語版作成を行った経緯が説明された。

これらの説明の後、審議が行われ、審議の結果、**第1号議案は原案通り承認**された。

### 第2号議案

#### 令和6年度事業計画（案）について

期日：令和6年2月4日（日）  
13:00～15:00  
場所：東京都新宿区 /  
Japansport Olympic  
Square 及びインターネット  
会議方式併用  
理事現在数：25名  
出席理事：19名  
欠席理事：6名  
出席監事：2名  
欠席監事：1名  
議長：三宅 豊

瀬戸山総務委員長より「令和6年度事業計画書」の内容及び事業計画案について説明された。

主な事業として、国内普及事業では小学校低学年および幼児における未経験者への普及振興事業、幼児期からのベースボール型体験プログラム普及振興事業（ASOBALL）、学校体育ベースボール型授業研修会における普及振興事業の継続を図り、引き続き日本リーグ・JD、リーグ加盟チームおよび日本トップリーグ連携機構によるソフトボールクリニック、ボールゲームフェスタへの参加を行うとともにアシリート委員会を中心に次年度以降の普及事業の検討を行う。

国際大会派遣として「女子TOPワールドカップファイナル」（イタリア）、「男子TOPワールドカップグループ

ステージ) (アメリカ)、「女子U18ワールドカップグループステージ」(中国)などに派遣を行う。

国際大会開催では「日米対抗ソフトボール」を読売新聞社と共同で昨年に引き続き開催する。

研修会開催については、隔年開催となっている中央研修会について、令和6年度は「審判員・記録員中央研修会」を実施せず、「指導者中央研修会」を実施する。

また昨年より再開した「中学生競技者育成中央研修会」(NTS)について、内容・方法を変更して実施することが説明された。

全日本大会については、例年通り開催されるが、一部、エルダー大会について、日本スポーツマスターズの女子種目が終了したことにより「復活開催」となることが説明され、男子・女子のリーグ日程についても予定が提示された。

これらの説明を受け、全日本大会並びにリーグ日程案は評議員会決定事項であるか質問があり、事業計画案は評議員の専権事項には入っていないことが確認され、本日の理事会での承認を持って「審判員・記録員中央研修会」の伝達資料とすること等が了承された。続いて、松田選手強化本部長より各

カテゴリー別強化合宿及び国際大会派遣日程案について補足説明が行われた。

また、「収益事業」の機関誌発行について厳しい財政の折、紙媒体からデジタル化により800万円の予算削減となること、「男子活性化プロジェクト」並びに「大学組織構築プロジェクト」については、いったん廃止とすることが併せて説明された。

以上の説明を受け、審議が行われ、審議の結果、**第2号議案は原案通り承認**された。

**第3号議案**

**令和6年度収支予算(案)**

について

石井財務委員長より「令和6年度収支予算案」について、令和6年度に実施する事業の主なポイントと予算概要について説明された。

5億6千354万円となる経常収益における主なポイントは、前年対比では女子U15ワールドカップが一時的な収入・支出増であったが、それがないことから、全体的に収支ともに減少していることが説明された。

その上で、①J.D. リーグ運営費負担金が1千万円の減。②クラウドファ

ンディングの実施により300万円の増となっている。

また、5億6千354万円となる経常費用における主なポイントについては、①Web会議実施による旅費交通費の減額を今年度も継続。②全日本大会・日本リーグへの役員派遣を削減。

③NTSについては次年度は中央研修の実施を取り止め、地区研修を充実させることで約1千100万円減となることと挙げられた。

続いて財務諸表の説明が行われ、経常収益においては、公益目的事業会計は4億4千225万860円、収益事業等会計は4千559万円、法人会計は7千569万9140円で合計5億6千354万円、経常費用においては、公益目的事業会計は4億5千946万3000円、収益事業等会計は1千520万6000円、法人会計は8千887万6400円で合計5億6千354万円となり、当期経常増減額はプラスマイナス「0」(ゼロ)となる。

一般正味財産期末残高は3億2千353万3068円で、指定正味財産3億円を加えた期末残高は6億2千353万3068円となることが説明され、審議が行われた。

本来であれば「ワールドゲームズ」などに備えて積み立てをして財源確保したいところではあるが、そこまでの

余力はなく、収支プラスマイナスゼロであり、予算削減ばかりではなく、予算を増やす取り組みとして「クラウドファンディング」にも挑戦する(2月25日の評議員会で説明し、翌26日から53日間実施予定)ことも説明・了承された。

また、機関誌を紙媒体から電子化する取り組みについて、それに伴う諸問題が討議され、審議の結果、**第3号議案は原案通り承認**された。

**第4号議案**

**役員候補者選考委員会並びに評議員選定委員会について**

岡本専務理事より、役員候補者選考委員会及び評議員選定委員会の委員について提案がなされた。

**【役員候補者選考委員会】**

三宅豊氏、星野一朗氏、須藤実和氏、塩島虎一郎氏、片山章氏、矢端信介氏

**【評議員選定委員会】**

佐藤弘之氏、赤城陽一氏、矢端信介氏、山本浩氏、宮島司氏

以上が説明され、審議が行われ、審議の結果、**第4号議案は原案通り承認**された。

**第5号議案  
総務委員会提案について**

瀬戸山総務委員長より、次の提案がなされた。

①令和6年度全日本大会地区割当て、昨年度からの変更点、補充順位。②令和6年度全日本大会及び日本リーグ使用球割当て。

続いて、鈴木表彰委員長より、次の提案がなされた。

①表彰対象となる全日本大会（令和6年度よりマスターズ男子、全国中学校大会男子・女子、国民スポーツ大会ねんりんピックでのMVP表彰は行わない）。②MVP選手贈呈の帽子のグレードアップ。

以上が説明され、**第5号議案は原案通り承認**された。

**第6号議案  
倫理・コンプライアンス委員会  
提案について**

岡本倫理・コンプライアンス委員長より、倫理・コンプライアンス委員会

で議題となった3事案に対する処分案について提案がなされ、**第6号議案は原案通り承認**された。

**第7号議案  
リーグ委員会提案について**

寺村リーグ委員長より、次の3点について提案がなされた。

①男子リーグ及び女子リーグ開催日程案。②リーグ個人表彰規程の一部改正について。③ピッチャーサークルラインについて。

以上の提案について説明され、審議が行われた。特にツーステップの軸足がラインからはみ出るケースが多いとの指摘があり、審判員はルールに厳格に判定してほしいとの要望が出されたが、ルール上、自由足についてはその規程があるものの、軸足についてはラインからはみ出てもルール上の規制はないことが改めて説明され、共通理解と意思統一が求められた。

まず当面は男子及び女子リーグ（日本協会の共同主催事業であるJ.D.リーグも同様の対応をとるとのこと）で実施。その状況を慎重に見守りながら、今後の大会での実施についても検討し、必要なら国際ルールに提案するこ

とも視野に入れながら取り組んでいくことが確認・了承され、**第7号議案は原案通り承認**された。

**第8号議案  
審判委員会提案について**

神谷審判委員長より、次の提案がなされた。

①令和6年度J.D.リーグ及び日本女子リーグ担当審判員合格者について。②令和5年度終身審判員推薦者名簿（案）について。

以上が説明され、審議の結果、**第8号議案は原案通り承認**された。

**第9号議案  
記録委員会提案について**

遠藤記録委員長より「令和5年度終身記録員推薦者名簿（案）」について提案され、**第9号議案は原案通り承認**された。

**第10号議案  
オフィシャルフォトについて**

岡本専務理事より「令和6年度オフィシャルフォト協賛契約」について、昨

年度に引き続きフォトクリエイティブ社と独占契約締結とすることが提案された。対象の大会は次の10大会。

- ①全日本小学生男子（埼玉県）
- ②全日本小学生女子（秋田県）
- ③全日本中学生男子（福岡県）
- ④全日本中学生女子（大阪府）
- ⑤全国高等学校選抜男子（千葉県）
- ⑥全国高等学校選抜女子（長崎県）
- ⑦都道府県対抗全日本中学生男子（宮崎県）
- ⑧都道府県対抗全日本中学生女子（群馬県）
- ⑨春季全日本小学生男子（奈良県）
- ⑩春季全日本小学生女子（岐阜県）

以上が説明され、審議の結果、**第10号議案は原案通り承認**された。

**第11号議案**

2026愛知名古屋アジア競技大会について

岡本専務理事より「第20回アジア競技大会」に係るテクニカルオペレーションマネージャー候補者について、栗山利宏氏（大垣ミナモト専務理事兼J.D.リーグ機構副会長）の推薦提案があり、審議の結果、**第11号議案は原案通り承認**された。

第12号議案  
選手強化本部提案

松田選手強化本部長より「令和6年度強化事業計画」が次のように提案された。

①女子TOP国内強化合宿・日米対抗・ワールドカップファイナル。②全国高等学校選抜女子(静岡県富士宮市)視察

以上が説明され、審議の結果、**第12号議案は原案通り承認**された。

第13号議案  
普及プロジェクト委員会  
提案について

磯谷普及プロジェクト委員長より、J S A主導のアカデミー立ち上げについて説明され、同アカデミーの設立については定款に記載されていないので、内閣府の承認が得られないことから、今回新たにJ D・リーグ加盟16チームに対し、普及を目的としたアカデミー設立について説明をすることが提案され、審議が行われた。審議の結果、**第13号議案は原案通り承認**された。

第14号議案  
令和6年度日韓親善交流事業  
について

岡本専務理事より「令和6年度日韓親善交流事業」について、来月開催される全国高校選抜女子優勝チームを派遣の対象とすることが提案され、審議の結果、**第14号議案は原案通り承認**。同大会の派遣理事である亀田理事から監督会議でその旨説明することが確認・了承された。

第15号議案  
令和5年度第2回定時評議員会  
の開催について

岡本専務理事より、「第2回定時評議員会」の開催日時・場所、議題が次のように提案された。

日時：令和6年2月25日(日)

12:30(役職員研修会を含む)

会場：品川プリンスホテル

メインタワー

議題…

第1号議案 議長の選出

第2号議案 議事録署名人の選出

第3号議案 令和5年度

収支補正予算案

第4号議案 令和6年度事業計画案  
第5号議案 令和6年度収支予算案  
第6号議案 評議員会推薦評議員候補者の審査・決議

以上が説明され、**第15号議案は原案通り承認**された。

●報告事項

1. 各専門委員会からの  
報告事項について

瀬戸山総務委員長より「第3回総務委員会」議事録が、神谷審判委員長より「第2回審判委員会」議事録が、遠藤記録委員長より「第2回記録委員会」議事録が、西技術委員長よりリモートで開催した「第1回技術委員会」議事録が、寺村リーグ委員長より「第3回リーグ委員会」議事録が、磯谷普及プロジェクト委員長より「第1回普及プロジェクト」議事録が、それぞれ提出され、詳細が報告された。

2. 第14回W B S C男子U18  
ワールドカップ報告

西チームリーダーより「第14回男子U18ワールドカップ」について報告され、

「体調不良者が出て心配されたが、スタッフの適切な対応により素晴らしい成績をあげることができた。本大会で優勝できたのは、田中ヘッドコーチはじめコーチングスタッフがいかにも良いコンディションで選手たちが試合に臨めるかを考え、それを実践してくれた結果と受け止めている。ご支援・ご協力いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます」と謝辞が述べられた。



「連覇」を記念し、制作された「第14回男子U18ワールドカップ」大会報告書

最後に宇津木妙子副会長より閉会の挨拶があり、すべての審議を終了した。

# 令和5年度第7回理事会議事録

本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認。また、理事25名中出席21名（欠席4名）、監事出席3名で定款第36条に基づき本理事会は成立することを確認し、審議が行われた。



## ● 審議事項

### 第1号議案

#### 共同主催契約の再締結について

岡本専務理事より、J.D. リーグ共同主催契約の再締結について、次のような提案がなされた。

第5条J.D. リーグ運営負担金が1千万円減額となり、条文の中に現状と必ずしも合致しない文言が散見されるが、来シーズンの開幕が迫っていることから契約締結を急ぐ必要がある、当面このままの内容で共同主催契約を再締結し、当面は文言を変えず運用で対応していくことが確認・了承された。

本来、共同主催事業である以上、大会開催地や大会会場の選定、観客動員策等について、一緒に知恵を絞って大会運営を行っていかねばならないが、別組織となり、組織の独立性や独自性、自主性を尊重し、ルールは別として、あまり踏み込まず、静観してきた経緯もある。今後、この共同主催契約の文言の見直しはもろんのこと、「ともに良くしていく」ために手を携

え、力を合わせて、努力していく必要があることを再確認した上で、**第1号議案は承認された。**

### 第2号議案

#### 選手強化本部提案について

松田選手強化本部長より「令和6年度事業計画書及び事業計画」が次のように提案・報告された。

① 令和6年度男子TOP日本代表チームスタッフ及び女子U18日本代表チームスタッフの提案があり、**原案通り承認された。**

② 女子U18日本代表チーム並びに男子TOP日本代表チームの事業予定について報告された。

### 第3号議案

#### 総務委員会提案事項

瀬戸山総務委員長より、次のような提案がなされた。

(1) 令和6年度全日本大会

#### 要項変更点

① 開会式は監督、コーチ、選手全員

期日…令和6年2月25日（日）

10:00～11:37

場所…東京都港区／

品川プリンスホテルメインタワー及

びインターネット会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…21名

欠席理事…4名

出席監事…3名

議長…三宅 豊

が参加すること（全種別共通）。

② 申し込み送付物について原本またはスキャンコピーでも可に変更（全種別共通）。

③ 小学生大会における「通訳のベンチ入りを認めない」の一文を削除（小学生種別）。

④ 監督またはコーチの資格についてスタートコーチ（教員免許状保持者）を追加（小学生種別）。

⑤ 5回以降7点差コールドゲームを採用（生涯種別）。

(2) 全日本関係大会

#### 派遣役員について

① 男女日本リーグ第1節は前年度表彰があるので役員派遣するが、2～4

節は派遣しない。

②小・中・高・大学及び選手権については役員派遣を行う。

③エルダー大会については実質第一回大会でもあり、状況把握する目的で役員派遣大会とする。

④8月の中体連全国大会は役員派遣なし。

⑤全日本レディース及び春季小学生女子について3日間開催を4日間開催に変更。

以上が説明され、審議が行われた。全日本教員大会については、コロナ禍を抜け、基本的には開会式は実施の方向で、屋内実施を想定しているが、開催地である香川県から開会式会場確保が困難な状況にあることが伝えられている。また、全日本総合男子選手権の日程が男子TOP日本代表が出場する「第18回男子ワールドカップグループステージ」の開催日程と重複しており変更可能か否か、開催地協会との調整を最優先で行うことが確認・了承され、**第3号議案は原案通り承認**された。

**第4号議案**

**記録委員会提案事項**

D. 遠藤記録委員長より令和6年度Jリーグを含む男女日本リーグ担当

記録員17名の名簿が提出され、審議が行われた。

審議の結果、**第4号議案は原案通り承認**された。

**第5号議案**

**リトルリーグ世界大会**

**参加について**

岡本専務理事より、リトルリーグのソフトボール部門への参加について、次のような提案がなされた。

①2025年1月末までにリトルリーグ米国内部にチーム登録(※選抜チームは認めず、単独チームでの登録とする)。②参加資格は9歳から12歳の女子。③経費については監督コーチ3名、選手14名以内の渡航費用、現地での交通費滞在費及び食費についてリトルリーグ野球協会が負担。④日本国内の移動経費は日本協会負担。

以上が説明され、使用球、投球距離、塁間の距離が確認され、草3号球、投球距離12.19m、塁間18.29mであることを確認。来年3月の大会で派遣チームを選出することを想定しているが、現時点で不明な点もあるので、必要事項・詳細を明確にした上で、再度提案することが了承された。

**第6号議案**

**中長期計画について**

三宅会長より、スポーツガバナンスコードの「中・長期計画」について提案された。

これは2020年に向け、策定された「基本理念」と「ありたい姿」を検証し、2030年「ありたい姿」を協会創立70周年記念の際、発表しているが、コロナ禍による予定された事業の中止・延期、スケジュールの遅れ等を含め、内容の検討見直しを進めている。もう少し検討が必要であり、各部門で作成いただいた「ロードマップ」については、今後さらに意見を頂戴し、煮詰めていくことが確認された。



今回の提出した資料はあくまでも

「未完成版」で、追加で提出いただいた2部門を付け加えて整理し、3月20日の常務理事会に「完成版」を提出。最終確認の上、年度内にホームページにアップする流れとなることが説明された。

これらの説明を受け、**第6号議案については目標値を修正して再提案**することが確認・了承された。

**第7号議案**

**日本スポーツマスターズ**

**参加における変更点について**

岡本専務理事より日本スポーツマスターズ参加における変更点が次のように提案された。

①2024長崎大会より女子の種別が廃止。②2024長崎大会より大会参加費が1人あたり8千円となり、監督・コーチ・スコアラーも対象となった。③1回戦準決勝までは90分の時間制限のみから5回以降7点差以上の得点差コールドゲームを採用する。④2025愛媛大会より義務づけられる指導者資格が「コーチ1」以上に引き上げられる。⑤「2024長崎大会」より主管協会と協議の上必要に応じて総務委員会が定める方法でチーム補充を可能とする。

以上が説明され、**第7号議案は原案通り承認**された。

### ● 報告事項

#### 1. 各専門委員会からの報告事項について

遠藤記録委員長より「第3回記録委員会」議事録が提出され、西技術委員長より「NTS事業」について再実施した結果の総括が行われ、次年度に向けた方針について次のようにまとめられ、報告された。



さらなる充実・発展をめざし、NTSのあり方を見直すことに……

①従来は日ソ協登録の小中学生を対象としていたが、令和6年度からは登録の有無にこだわらず参加可能とした。  
②教えるだけではなく指導者委員会や普及委員会と協議・連携の上、プロジェクトを進めていかなないと本当の意味での「底上げ」にはつながらないと考え、「地区研修会」を実施してから「ブロック研修会」を実施する形に変更する。  
③前回の理事会で普及プロジェクトから提案のあったJ.D.リーグのアカデミーともタイアップしながら進めていくことも視野に入れ、事業を進めるべく他委員会の協力・連携体制を強化し、47都道府県協会へもさらなる理解・協力が求められた。

#### 2. 令和6年度公認・推奨・検定品について

矢端事務局長より、これまでは慣例で締結してきた「覚書」について各メーカー様から質問があった公認・推奨・検定料の根拠について取りまとめを行い、2月29日に説明会を実施することが報告された。

従前は「覚書」の記載内容が公認品・推奨品・特別推奨品それぞれ入り乱れており、今回整理し、令和6年度分より新フォーマットで覚書締結を行うことが併せて報告された。

#### 3. 女子U18ソフトボール国際交流事業について

矢端事務局長から、女子U18国際交流事業について、次のように報告がなされた。



昨年10月、東京で開催され、有形無形の成果・レガシーを残した「女子U15ワールドカップ」。次なるレガシーイベント開催なるか?!

①昨年10月に東京都の協力により女子U15ワールドカップを開催したが、東京都はこのレガシーイベントを毎年開催したい意向があり、令和6年度は昨年の規模ではないがU18アメリカの都市選抜チームと東京都の選抜チームによる親善試合を実施したいとの要望がある。

②日米対抗との同時開催は無理なので、10月第1週に東京都で開催のJ.D.リーグのイベントとして開催できないかとの相談を受け、栗山、中谷両副会長に打診し、2月27日に「東京都」「J.S.A」「J.D.リーグ」の三者で打ち合わせを行い、継続して検討することとなっている。



女子U18は「日韓交流事業」が国際交流として定着している

③アメリカ側にも打診しているが、そもそもアメリカ側が派遣してくれない場合は実現しない事業である。

④予算は東京都側が1千900万円の予算を計上している。

以上をもって、すべての審議を終了し、閉会した。



# 令和5年度第2回定時評議員会議事録



評議員総数50名のうち出席43名で定款第6章第23条に基づき、本評議員会は成立。審議に先立ち、本評議員会は会場集合方式とインターネット会議方式(Zoomミーティング)の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認された。

評議員会の開催に先立って大嶽雄揮顧問弁護士を講師として「コンプライアンス・パワーハラスメント研修」が実施された。

## ● 審議事項

### 第1号議案 議長の選出について

三宅会長より、定款第22条3項に基づき出席評議員の中から議長選出する旨の説明があり、福岡県・久野伸一評議員から千葉県・井之上哲夫評議員を議長に推薦する提案があり、**全会一致で承認**。  
井之上評議員が今回の評議員会の議長を務めることとなった。

期日…令和6年2月25日(日)  
12…30～14…36

場所…東京都港区/品川プリンスホテルメインタワー及びインターネット会議方式併用

評議員現在数…50名

出席評議員…43名

欠席評議員…7名

理事現在数…25名

出席理事…22名

欠席理事…3名

出席監事…3名

### 第2号議案

#### 議事録署名人の選出について

議長より、議事録署名人の選出について、北海道・長沼薫評議員、高知県・池澤良介評議員を任命する提案があり、**全会一致で承認**された。

### 第3号議案

#### 令和5年度収支補正予算案について

石井財務委員長より「令和5年度収支補正予算」が提案され、主に国際大会派遣や国内強化合宿の費用削減に伴う支出の減少と、男子アジアカップの収入・支出が確定し、女子U15ワール

ドカップの収入・支出の見込みが出たことに伴うJSC（独立行政法人日本スポーツ振興センター）及び自治体の受取補助金が確定した内容の補正であり、併せてレプリカユニフォーム販売を読売新聞社と共同主催した「日米対抗ソフトボール」の精算に含入したことによる補正であることが説明された。

収入においては、当初9億5千919万9600円のところ、7千444万4691円減の8億8千475万4909円となる。

支出においては、当初10億2千941万9600円のところ、9千904万9414円減の9億3千37万186円となった。

全体としては当初予算比2千460万4723円増の4千561万5277円マイナスの補正予算案となる。

このうち、特定資産取崩収入（男子国際大会開催事業積立1千500万、普及振興事業積立500万）2千万円を差し引いた、約2千561万円が実質赤字となることが説明され、質疑応答が行われた。

〔三重県・雑賀評議員からの質疑〕

トータル的には赤字額が減ったとの説明だが、支出の部で節約とか経費節減とか、どの程度見込んでいてどのような結果となったのか具体的に教えて

いただきたい。また、最後の方でコンサル費用について説明があったが具体的にどのようなコンサル費用なのか詳細をお聞かせ願いたい。

〔石井財務委員長の答弁〕

節約・経費節減については、予算概算で大枠を設定していたものが予算執行段階で使途を精査し、絞り込んだことが節約・経費節減につながったものと受け止めている。また女子U15ワールドカップについては東京都が精査した結果、対象にならないものが出てくるといったこともあった。

〔岡本専務理事の答弁〕

コンサル費用については、職員の業務量過多についてヒヤリングを実施し、新しい事業を行っていくには、どの程度の人員補充が必要か等を把握するための職員調査に要した費用である。

〔三重県・雑賀評議員からの質疑〕

財務委員長にお言葉を返すようで恐縮だが、当初の予算立案の際、概算・大枠で立案したものが赤字予算であった……ということに甚だ疑問を感じる。

ここで採決の方法について確認があり、反対の人のみ挙手（意思表示）するのではなく、賛成の方の挙手（意思

表示）を確認した方が良いのではないかとの意見が出されたが、審議の結果、当初の予定通り、反対の方のみ挙手（意思表示）する形で議事進行していくことが確認された。

この後、改めて審議が行われ、審議の結果、**第3号議案（令和5年度収支補正予算案）は賛成多数で承認された。**

**第4号議案  
令和6年度事業計画案  
について**

瀬戸山総務委員長より「令和6年度事業計画書」の内容及び事業計画案について説明された。

主な事業として、国内普及事業では小学校低学年および幼児における未経験者への普及振興事業、幼児期からのベースボール型体験プログラム普及振興事業（ASOBALL）、学校体育ベースボール型授業研修会における普及振興事業の継続を図り、引き続き日本リーグ・J.D. リーク加盟チームおよび日本トップリーグ連携機構によるソフトボールクリニック、ボールゲームフェスタへの参加を行うとともにアシリート委員会を中心に次年度以降の普及事業の検討を行う。

国際大会派遣として「女子TOPワ

ールドカップファイナル」（イタリア）、「男子TOPワールドカップグループステージ」（アメリカ）、「女子U18ワールドカップグループステージ」（中国）などに派遣を行う。

国際大会開催では「日米対抗ソフトボール」を読売新聞社と共同で昨年引き続き開催する。

研修会開催については、隔年開催となっている中央研修会について、令和6年度は「審判員・記録員中央研修会」を実施せず、「指導者中央研修会」を実施する。

また昨年より再開した「中学生競技者育成中央研修会」（NTS）について、内容・方法を変更して実施することが説明された。

全日本大会については、例年通り開催されるが、一部、エルダー大会について、日本スポーツマスターズの女子種目が終了したことにより「復活開催」となることが説明された。

続いて寺村リーグ委員長より男子・女子のリーグ日程案が提示され、説明された。

これらの説明の後、瀬戸山総務委員長より補足説明があり、「生涯種別」の大会については日ソ協からの理事派遣を行わず、支部協会の理事長にお願いする形となる。ただし、選手権大会並びに小・中・高・大学の大会（中体連

主催を除く)、久々の「復活開催」であり、第1回大会の開催に等しいエルダー大会については理事派遣を行うことが説明され、理事派遣に関する理解・協力が求められた。

これらの説明を受け、質疑応答が行われた。

〔岡山県・金田評議員からの質疑〕

今年度J.D. リーグで大きな赤字が出たと聞いているが、今後の見通し、日本協会との関係性について改めて確認させていただきたい。

〔三宅会長の答弁〕

J.D. リーグとの関係性から説明しますと「共同主催事業」であり、一緒になって盛り上げていこうとしている。しかし、別組織であり、組織の独立性・独立性、自主性を鑑み、日本協会はあるさく口出しせず、ほぼほぼJ.D. リーグの方で進めてきたものを守り、静観してきた経緯はある。

その結果、昨年度の赤字となり、チームに補填いただき、何とか解消出来はしましたが、私はその責任を取り、辞任を申し出てこの3月末でJ.D. リーグは退任予定となっている。日ソ協の理事も1〜2名を除き退任予定で、今後は新しい役員のもとで再スタートを切る形となると考えている。

あくまでも「一緒にやっていく」スタンスに変わりはなく、支部においても最初の段階でボタンの掛け違いがあったと聞いているが、支部協会、J.D. リーグ、日本協会一体となって盛り上げ、赤字が出ないよう進めていければ……と考えている。J.D. リーグの体制がだいたい変わるようだが、より一層のご支援をお願いしたい。

〔岡山県・金田評議員の質疑〕

旧・日本女子リーグ1部の時代と比較し、大幅に赤字が出たのは運営費用がかかったということか。

〔三宅会長の答弁〕

リーグを盛り上げるためにイベントの仕掛けを行い委託費用が膨らみ、その割に想定したほどの集客につながらず、収支が悪化したということになるかと思う。

〔岐阜県・鈴木評議員の質疑〕

令和6年度の男子リーグ交流節を岐阜県で開催出来ないかとの打診を受け調整しているが、グラウンド確保が難しく二転三転している。

開催地から「最終的にどうなるのか」ハッキリしてほしいと要望が来ているので、この機会に状況をお教えいただき、確認させていただきたい。

〔岡本専務理事の答弁〕

リーグ委員会と調整したが、今回に関しては公式試合にはならないことから、予算の適用・支出が難しく岐阜県での交流節は行わない。

〔岐阜県・鈴木評議員の質疑〕

開催地の市長が市制施行70周年記念事業として期待しており、グラウンドの都合がつかず、日程を変更してまで対応したが、日本協会からは音沙汰なかがなものの。市長にまで動いてもらっているの、せめてお詫びの文書を出してほしい。

〔岡本専務理事の答弁〕

大変申し訳ございません、リーグ委員会と相談の結果、大会は行わないとの決定に至ったが、活性化委員会の方と別途協議し、改めて文書にて回答させていただきます。

〔三宅会長の答弁〕

お詫びについては、会長である私の責任であり、経緯を調査の上、会長名でお詫びの文書を出させていただきたい。問題は回答が遅く、迅速な対応ができていないことと、コミュニケーション不足にあると感じている。今後については情報が滞らないよう事務局ともども進

めていくよう努力してまいりたい。

〔鳥取県・徳田評議員からの質疑〕

都道府県対抗全日本中学生大会の日程について、今年は男女ともに3月29日〜31日となっているが、顧問の先生がこの時期人事異動や事務引継ぎ等で多忙を極め、大会出場が難しくなるケースが多い。春休みに入っただけに大会を開催するような日程にできないか考慮してほしい。

もう1点、中国地区大会の日程が確定した後、日本女子リーグの日程が決まり、調整が必要となった。今後は全日本大会とリーグの日程を同時に公表させていただきたい。

〔三宅会長の答弁〕

私も長く同じような立場(教員)にあつたので、この時期は4月1日に辞令が出るので非常に厳しいことを重々認識している。

大事なことはご意見として頂戴したものを来年まで放置せず、議論して、たとえ2日でも前倒しできるか検討すること。検討し、行動してそれでもダメだったのであればまだ理解は得られると思うので、ぜひともそのような姿勢で臨み、私の任期は終わりますが、次期会長・理事の皆さんに検討してもらえよう引き継ぎたい。

〔寺村リーグ委員長の答弁〕

リーグの日程については11月をメドに公表し、前年と大きくズレない日程で開催している。ご理解願えば幸いです。

この後、福井県・吉田評議員より、資料訂正（女子リーグ日程で「順位決定節」が同じ日程で2回記載があった）が求められ、審議が行われた。

審議の結果、**第4号議案（令和6年度事業計画案）は賛成多数で原案通り承認された。**

第5号議案

令和6年度収支予算案について

石井財務委員長より「令和6年度収支予算案」について、令和6年度に実施する事業の主なポイントと予算概要について説明された。

5億6千354万円となる経常収益における主なポイントは、前年対比では女子U15ワールドカップが一時的な収入・支出増であったが、それがないことから、全体的に収支ともに減少していることが説明された。

その上で、①J.D.リーグ運営費負担金が1千万円の減。②クラウドファンディングの実施により300万円の増となっている。

また、5億6千354万円となる経

常費用における主なポイントについては、

①Web会議実施による旅費交通費の減額を今年度も継続。②全日本大会・日本リーグへの役員派遣を削減。

③NTSについて次年度は中央研修を止めて地区研修を充実させることで約1千100万円減となることが挙げられた。

続いて財務諸表の説明が行われ、経常収益においては、公益目的事業会計は4億4千225万860円、収益事業等会計は4千559万円、法人会計は7千569万9140円で合計5億6千354万円、経常費用においては、公益目的事業会計は4億5千946万3000円、収益事業等会計は1千520万6000円、法人会計は8千887万6400円で合計5億6千354万円となり、当期経常増減額はプラスマイナス「0」（ゼロ）となる。

一般正味財産期末残高は、3億2千353万3068円で、指定正味財産3億円を加えた期末残高は、6億2千353万3068円となることが説明された。

続いて岡本専務理事から補足説明として、予算策定当初は4千200万円の赤字を想定していたが、その解消策として、支出において男子活性化及び大学プロジェクトの廃止とJ.D.リーグ、生涯種別全日本大会への役員派遣

削減、機関誌について紙媒体から電子化し、ホームページに掲載する形に変更。次に収入において、登録料は当初5%減少を2%減少に変更した予算としていることが補足説明され、理解と協力が求められた。

最後に、削減だけではなく費用を捻出する必要がある中で、クラウドファンディングに挑戦することから、こちらへの支援・協力が併せて要請された。これらの説明を受け、質疑応答が行われた。

〔群馬県・北澤評議員の質疑〕

全日本大会委託費で生涯種別の一般男子からハイシニアまで66万円となっているが、教員だけなせ106万なのか。チーム数の上限が少ない同じゴムの大会で不公平ではないか。

〔矢端事務局長の答弁〕

特に意図したものではなく、従前の数字をそのまま引き継いできたものであり、いったん預からせていただき、見直しを行いたい。

〔瀬戸山総務委員長の答弁〕

教員は従来の選手権大会の選手権を外しただけでブロック予選会を実施する大会となる。全日本大会だと47都道府県+1の48チームになるので、革ボ

ールで実施していったときの名残りと理解していただきたい。

〔富山県・廣瀬評議員からの質疑〕

一般的には事業と予算はワンセットであり、登録料2%減の予算となつていますが、この2%減についてどう把握されているのか。中身を理解されているのか。審判員・記録員の登録にも関わってくるが、2%減を新しい事業に取り組んで1%減に抑える事業の方向を検討すべきではないか。審判員及び記録員の第一歩は第3種の資格取得となるが、この第3種にチャレンジする人をどう育てていくか。その事業は何か。ここにいくらお金をかけているか。短期的にどうするか。中長期的にはどうするか。儲けるとか、裾野を広げる、視点を変える、新しい発想の事業は何か。そこにお金をかけるのであれば各支部協会の理解と協力が得られると感じる。底辺を広げる事業と予算立て、中長期的ビジョンを示してくれば、県協会もしっかり協力できるのではないかと感じている。

〔岡本専務理事の答弁〕

2%にした根拠は特にあるわけではなく、過去に電通が調査した際にソフトボールの減少率が高く、そこを見越して当初5%減としていたが、それで

は協会の努力が足りないもので、2%減が妥当なのではないか……と考へてのものである。

これらの質疑応答を受け、審議が行われ、審議の結果、**第5号議案(令和6年度収支予算案)**は賛成多数で**原案通り承認**された。

**第6号議案  
評議員会推薦評議員候補者の  
審査・決議について**

矢端事務局長から評議員会推薦評議員候補者名簿案について説明され、定款第43条「事務局」の項に評議員会事務局が事務局長であることが定められていることを受け、次の2点が提案された。

評議員選定委員会に提出する評議員候補者は理事会又は評議員会が候補者選考・推薦に関する規程に基づきそれぞれ推薦届を提出することになるが、3県を除きほぼ出揃っており、内容に不備等がないことが確認されている。

①本理事会に提出されている評議員候補者名簿に掲載の候補者を、評議員会として評議員選定委員会に推薦いただけるかどうか。

②現在提出がされていない3県について、別途臨時評議員を招集し、審議

するか、もしくは各都道府県協会において提出される内容であることから、評議員会として推薦するものとして取り扱ってよいか。

以上の提案を受け、審議が行われ、審議の結果、提出された候補者名簿に記載の候補者を評議員会として推薦すること。また、現在候補者が提出されていない3県の候補者については、提出された候補者を評議員会推薦候補者として取り扱うことが**承認**された。



今回の評議員会の議長を務めた千葉県・井之上評議員

以上ですべての審議事項が終了し、井之上議長は議長席より降壇した。

**●報告事項**

**1. クラウドファンディング実施について**

岡本専務理事より、クラウドファンディングの概要について説明された。ロサンゼルスオリンピックでソフトボールは正式種目に復帰したが日本協会の財政状況は大変厳しい状況で、各NFもこれに向けて努力している。本協会もクラウドファンディングを行い、稼ぐ努力に挑戦する。

目的は男女の強化事業への支援、一部普及事業への支援を予定しており、期間は令和6年2月26日から4月19日までの53日間。オールイン方式で資金目標を達成できなくても全額受け取ることとは出来るが、300万で予算を立てているので300万は超えたいと考えている。

支援の方法はインターネット方式とチラシがあり、チラシでは名簿の確認が出来ないのでインターネット方式での寄付をお願いしたい。今回READ YFOR社との契約で報酬は17%+消費税となっている。

最初の5日間が重要で、広く周知いただき、多大な寄付を頂戴することを

お願いしたい。めざすは5日間で40%(120万円)、評議員の皆さまには各チーム、関係機関の皆さまにご紹介いただくようお願いしたい。

**〔岡山県・金田評議員からの質疑〕**

決議事項ではなく報告事項との認識だが、目標額300万円の根拠と、支援する種別はTOP代表となるのか。

**〔岡本専務理事の答弁〕**

対象は全カテゴリーとなる。目標金額については私も少なく感じたが、READYFOR社の方の方が今の状況を見て300万円が妥当ではないかと判断され、その金額に設定した。



40年近く事務局を支え続けた横田相談役が退職

最後に、3月末をもって退職される日本協会事務局・横田相談役から挨拶があり、以上をもって、すべての議事を終了し、閉会した。

## ニトリ JD.LEAGUE 2024 日程

節	期 日	地区	会 場
第1節	4月12日(金)～14日(日)	東	愛知県安城市／デンソーブライトペガサススタジアム 岐阜県大垣市／大垣市北公園野球場
	4月13日(土)・14日(日)	西	滋賀県草津市／草津グリーンスタジアム 愛媛県松山市／マドンナスタジアム
第2節	4月20日(土)・21日(日)	東	神奈川県茅ヶ崎市／茅ヶ崎公園野球場 埼玉県さいたま市／レジデンシャルスタジアム大宮
	4月19日(金)～21日(日)	西	愛知県豊田市／豊田市運動公園野球場 福岡県北九州市／北九州市民球場
第3節	4月27日(土)・28日(日)	東	静岡県掛川市／掛川市いこいの広場野球場 群馬県太田市／太田市運動公園野球場
	4月26日(金)～28日(日)	西	兵庫県尼崎市／ベイコム野球場 愛知県刈谷市／刈谷球場
第4節	5月10日(金)～12日(日)	東	神奈川県横浜市／保土ヶ谷球場 栃木県那須塩原市／くろいそ野球場
	5月11日(土)・12日(日)	西	京都府宇治市／山城総合運動公園野球場 愛知県名古屋市中区／パロマ瑞穂野球場
	5月10日(金)～12日(日)		
第5節	5月17日(金)～19日(日)	東	愛知県安城市／デンソーブライトペガサススタジアム 栃木県宇都宮市／宇都宮清原野球場
	6月15日(土)・16日(日)	西	愛媛県西予市／西予市宮宇和球場 兵庫県豊岡市／全但バス但馬ドーム
第6節	5月25日(土)・26日(日)	東	岐阜県大垣市／大垣市北公園野球場 群馬県高崎市／宇津木スタジアム
	5月24日(金)～26日(日)	西	福岡県北九州市／北九州市民球場 愛知県刈谷市／刈谷球場
第7節	6月1日(土)・2日(日)	交流節	愛知県豊田市／豊田市運動公園野球場 静岡県掛川市／掛川市いこいの広場野球場 京都府京都市／わかさスタジアム京都 埼玉県朝霞市／朝霞中央公園野球場
第8節	6月8日(土)・9日(日)	交流節	滋賀県草津市／草津グリーンスタジアム 愛知県小牧市／小牧市民球場 新潟県上越市／高田城址公園野球場 群馬県桐生市／小倉クラッチスタジアム
第9節	9月7日(土)・8日(日)	交流節	高知県四万十市／四万十スタジアム 北海道札幌市／札幌市麻生球場 愛知県安城市／デンソーブライトペガサススタジアム 千葉県浦安市／浦安市運動公園野球場
第10節	9月28日(土)・29日(日)	交流節	岩手県胆沢郡金ヶ崎町／しんきん森山スタジアム 栃木県足利市／ジェットブラックフラワーズスタジアム 群馬県高崎市／宇津木スタジアム
第11節	10月4日(金)～6日(日)	東	愛知県豊田市／豊田市運動公園野球場 岐阜県大垣市／大垣市北公園野球場
	10月5日(土)・6日(日)	西	東京都多摩市／多摩市一本杉公園野球場 福岡県北九州市／北九州市民球場
	10月4日(金)～6日(日)		滋賀県甲賀市／甲賀市民スタジアム
第12節	10月18日(金)～20日(日)	東	群馬県高崎市／宇津木スタジアム 神奈川県秦野市／中栄信金スタジアム秦野
	10月19日(土)・20日(日)	西	愛媛県松山市／マドンナスタジアム 愛知県刈谷市／刈谷球場
第13節	10月26日(土)・27日(日)	東	静岡県掛川市／掛川市いこいの広場野球場 埼玉県本庄市／ケイアイスタジアム
	10月25日(金)～27日(日)	西	京都府京都市／わかさスタジアム京都 愛知県豊橋市／豊橋市民球場
プレーオフ	11月9日(土)・10日(日)		神奈川県川崎市／等々力球場
ダイヤモンドシリーズ	11月16日(土)・17日(日)		愛知県名古屋市中区／パロマ瑞穂野球場

### 第53回日本男子リーグ 日程

節	期日	会場
第1節	4月26日(金)~28日(日)	広島県尾道市/尾道市御調ソフトボール球場
第2節	6月1日(土)・2日(日)	茨城県小美玉市/希望ヶ丘公園多目的広場・軟式野球場
		鹿児島県南九州市/知覧平和公園多目的球場・諏訪運動公園
第3節	8月30日(金)~9月1日(日)	三重県熊野市/御浜町 山崎運動公園くまのスタジアム 他
	8月31日(土)・9月1日(日)	高知県高知市/高知県立春野総合運動公園ソフトボール場
第4節	10月5日(土)・6日(日)	栃木県大田原市/美原公園野球場・第2球場・黒羽運動公園多目的広場
		熊本県水俣市/エコパーク水俣特設ソフトボール場
予備節	10月19日(土)・20日(日)	静岡県伊豆市/天城ふるさと広場野球場(雨天時:天城ドーム)
決勝 トーナメント	11月9日(土)・10日(日)	埼玉県鴻巣市/上谷総合公園野球場(フラワースタジアム)

### 第57回日本女子リーグ 日程

節	期日	会場	
第1節	4月20日(土)・21日(日)	石川県金沢市/金沢市営専光寺ソフトボール場	
第2節	5月17日(金)~19日(日)	ブラチナ	千葉県市原市/ゼットエーボールパーク
		サファイア	長崎県時津町/とぎつ海と緑の運動公園
予備節	6月4日(火)・5日(水)	静岡県伊豆市/天城ふるさと広場野球場(雨天時:天城ドーム)	
交流節	7月5日(金)~7日(日)	富山県富山市/岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場	
第3節	8月31日(土)・9月1日(日)	ブラチナ	静岡県富士宮市/富士山スタジアム
		サファイア	栃木県大田原市/美原公園第2球場
第4節	9月27日(金)~29日(日)	ブラチナ	岡山県新見市 憩いとふれあいの公園野球場
		サファイア	三重県熊野市/山崎運動公園くまのスタジアム
予備節	10月16日(水)・17日(木)	静岡県伊豆市 天城ふるさと広場野球場(雨天時:天城ドーム)	
順位決定節	11月1日(金)~3日(日)	鹿児島県南九州市/知覧平和公園多目的球場	



## 2024年度 全日本大会日程

回数	種 別	期 日	会 場
64	実業団男子選手権	7月27日(土)～29日(月)	鹿児島県鹿児島市
64	実業団女子選手権	7月27日(土)～29日(月)	石川県金沢市
45	クラブ男子選手権	7月20日(土)～22日(月)	岡山県新見市
45	クラブ女子選手権	7月20日(土)～22日(月)	岩手県一関市
59	高校男子選手権	7月28日(日)～31日(水)	長崎県大村市
76	高校女子選手権	7月22日(月)～25日(木)	長崎県大村市
59	大学男子選手権	9月7日(土)～9日(月)	富山県富山市
59	大学女子選手権	8月30日(金)～9月1日(日)	愛知県安城市
70	全日本総合男子選手権	9月28日(土)～30日(月)	長野県伊那市
76	全日本総合女子選手権	9月14日(土)～16日(月・祝)	滋賀県守山市・草津市・ 東近江市・高島市
38	小学生男子大会	8月3日(土)～6日(火)	埼玉県戸田市
38	小学生女子大会	7月27日(土)～30日(火)	秋田県由利本荘市
46	全国中学校男子大会	8月18日(日)～20日(火)	富山県富山市
46	全国中学校女子大会	8月18日(日)～20日(火)	富山県富山市
29	レディース大会	8月16日(金)～19日(月)	北海道石狩市
16	エルダー大会	11月2日(土)～4日(月・振替休日)	滋賀県高島市
23	エルデスト大会	10月19日(土)～21日(月)	静岡県浜松市
70	教員大会	7月27日(土)～29日(月)	香川県丸亀市
21	一般男子	8月24日(土)～26日(月)	宮崎県宮崎市
39	壮年大会	9月21日(土)～23日(月・振替休日)	東京都八王子市
33	実年大会	8月31日(土)～9月2日(月)	大分県大分市
38	シニア大会	10月12日(土)～14日(月・祝)	山梨県甲府市・笛吹市
19	ハイシニア大会	9月21日(土)～23日(月・振替休日)	兵庫県明石市・高砂市・加古郡
24	中学生男子大会	8月11日(日)～13日(火)	福岡県福岡市
24	中学生女子大会	8月10日(土)～12日(月・振替休日)	大阪府堺市
78	国スポ 成年男子	10月12日(土)～14日(月・祝)	佐賀県白石町
//	成年女子	//	// 江北町・小城市
//	少年男子	//	// みやき町・上峰町
//	少年女子	//	// 太良町
24	日本スポーツマスターズ大会(男子)	9月28日(土)～10月1日(火)	長崎県時津町・長与町
36	ねんりんピック	10月19日(土)～22日(火)	鳥取県米子市・琴浦町・ 大山町・南部町
43	高校選抜男子	2025年3月22日(土)～25日(火)	千葉県成田市
43	高校選抜女子	2025年3月21日(金)～24日(月)	長崎県大村市
21	都道府県対抗全日本中学生男子大会	2025年3月28日(土)～30日(月)	宮崎県宮崎市
21	都道府県対抗全日本中学生女子大会	2025年3月28日(土)～30日(月)	群馬県伊勢崎市
18	春季小学生男子大会	2025年3月29日(日)～31日(火)	奈良県奈良市・ 大和郡山市・生駒市
18	春季小学生女子大会	2025年3月27日(木)～30日(日)	岐阜県揖斐川町



## 2024年度 全日本大会・日本リーグ使用球一覧

## (ゴムボール使用大会)

回数	種別	使用球
59	高校男子選手権	ナガセケンコー
76	高校女子選手権	内外ゴム
38	小学生男子	内外ゴム
38	小学生女子	ナガセケンコー
24	中学生男子	内外ゴム
24	中学生女子	ナガセケンコー
46	中学校男子	内外ゴム
46	中学校女子	ナガセケンコー
29	レディース	ナガセケンコー
16	エルダー	ナガセケンコー
23	エルDEST	ナガセケンコー
70	教員	ナガセケンコー
21	一般男子	ナガセケンコー
39	壮年	内外ゴム
33	実年	内外ゴム
38	シニア	内外ゴム
19	ハイシニア	マルエス
24	マスターズ男子	内外ゴム
78	国スポ(少年男子)	ナガセケンコー
78	国スポ(少年女子)	内外ゴム
43	高校選抜男子	ナガセケンコー
43	高校選抜女子	内外ゴム
21	都道府県対抗中学生男子	内外ゴム
21	都道府県対抗中学生女子	ナガセケンコー
18	春季小学生男子	マルエス
18	春季小学生女子	内外ゴム

## (革ボール使用大会)

回数	種別	使用球
64	実業団男子選手権	ナガセケンコー
64	実業団女子選手権	ローリングス
45	クラブ男子選手権	内外ゴム
45	クラブ女子選手権	内外ゴム
59	大学男子選手権	ナガセケンコー
59	大学女子選手権	アメアスポーツジャパン
70	全日本総合男子	内外ゴム
76	全日本総合女子	ナガセケンコー
78	国スポ(成年男子)	ナガセケンコー
78	国スポ(成年女子)	内外ゴム
53	男子リーグ	ミズノ
3	J D. リーグ	ミズノ
57	女子リーグ	ミズノ

# 事務局だより

## ちびっこソフトボーラー！ 154チームが熱戦を展開！

去る2月25日、3月3日、3月10日（女子は3月2日、3月10日）、第50回を教える「鹿児島県ちびっこソフトボール大会」が開催され、鹿児島県内11地区の小学生男女「154チーム」が熱戦を繰り広げた。

「鹿児島県ちびっこソフトボール大会」は県内最大規模の大会として知られており、選手たちにとっても各地のライバルを相手に日頃の練習の成果を発揮できる「絶好の機会」となっている。

今回は2019年以来5年ぶりとなる「開会式での入場行進」が復活！大会の盛り上がりが本場の意味で蘇り、子どもたちも元氣一杯のプレイを披露!! 主催の南日本新聞社も新聞の紙面を通じて熱戦の模様を伝え、チームの記録や選手たちの頑張りを大々的に報道した。

2024年(令和6年)2月20日 火曜日



第50回鹿児島県ちびっこソフトボール大会

◆主催 鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会  
南日本新聞社

◆主 幹 鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会  
鹿児島県ソフトボール協会、鹿児島県ソフトボール協会、鹿児島県、日南市、南九州市、霧島市、姪浜市

◆特別協賛 鹿児島銀行、NTT西日本鹿児島支店

◆協 賛 鹿児島グループ  
南日本新聞販売所協会、JFA鹿児島県経団連グループ、内外ゴム、共済専攻会連盟、選手セーフティ推進委員会

### 栄冠へ 仲間とともに

11地区154チームが熱戦

第50回鹿児島県ちびっこソフトボール大会「開会式」が、2月25日（日）に鹿児島県立総合体育館で行われ、約1,500名が参加した。開会式では、選手たちが元気一杯にプレイを披露し、大会の盛り上がりを見せた。また、選手たちの活躍や、大会の模様を大々的に報道した。

25日開幕、3月10日決勝

**南日本新聞特集**

2面 組み合わせと日程  
3～9面 出場チーム紹介



# 夢に、全カプレー!

開催に先立って「南日本新聞社」が大会の組み合わせ・出場チームの紹介を行い、開幕を大々的にPR!